NICHIGEI FINE ARTS GRADUATION WORKS

2020

PAINTING／PRINTMAKING／SCULPTURE

令和元年度

日本大学芸術学部美術学科　卒業制作・論文集

絵画／版画／彫刻

令和元年度
日本大学芸術学部美術学科
卒業制作・論文集に寄せて

この度、新元号「令和」となって最初の卒業生を世に送り出します。「令和元年度日本大学芸術学部美術学科卒業制作・論文集」には、絵画コース絵画専攻29名、同版画専攻10名、彫刻コース9名、計48名の卒業生による卒業制作あるいは卒業論文が収録されています。

卒業制作・論文とは、本学在学中に自ら学び、自ら考え、そして自ら実践したこと、そうして研鑽を積んできたことの集大成です。

卒業生諸君、8つの学科を有する芸術総合学部「日藝」という稀有な環境の中、美術を通して培った無二の感性を尊び、これからも日々その感性を磨き続けてください。この「美的感性」は、将来にわたって諸君が直面するさまざまなシーンにおいて、必ずや周囲の環境に創造的なアイディアをもたらすことでしょう。

「卒業制作・論文集」をご覧いただく方々には、若き卒業生たちの芸術に対するひたむきな情熱を感じ取っていただければ幸甚に存じます。未知なる社会へ向けて、今まさに羽ばたこうとする彼らの今後の活躍を大いに期待してください。

令和２年２月

日本大学芸術学部美術学科主任
教授　福島唯史

PAINTING

絵画コース　絵画専攻

制 作

青柳毬子
AOYAGI Mariko

篠塚由佳子
SHINOTSUKA Yukako

俣田桜
MAMADA Sakura

田原百恵
TAHARA Momoe

庭野彩香
NIWANO Ayaka

広山星香
HIROYAMA Seika

岩崎紘陸
IWASAKI Hiromu

安藤玲奈
ANDO Reina

箱田由希
HAKODA Yuki

吉本美樹
YOSHIMOTO Miki

神保暁
JIMBO Akira

児島由加子
KOJIMA Yukako

桑原ざくろ
KUWABARA Zakuro

村上蒼
MURAKAMI Aoi

木村陸斗
KIMURA Rikuto

小柳新之介
KOYANAGI Shinnosuke

辻本彬
TSUJIMOTO Akira

佐藤佳凜
SATO Karin

伊加利尚他
IKARI Shouta

末田莉子
SUEDA Riko

末永千浩
SUENAGA Chihiro

倉中瞳
KURANAKA Hitomi

寺脇早也加
TERAWAKI Sayaka

小林凜輝
KOBAYASHI Riki

島村聖
SHIMAMURA Satoru

寺倉花音
TERAKURA Kanon

大島優太
OSHIMA Yuta

清水由紀
SHIMIZU Yuki

論 文

江田愛美
EDA Manami

青柳毬子 | AOYAGI Mariko | **白澤** | カンヴァス・油彩／130.3×162.0cm

篠塚由佳子 | SHINOTSUKA Yukako | **どうでもいいこと** | カンヴァス・油彩・クレヨン・鉛筆／162.0×130.3cm

俣田桜 | MAMADA Sakura | **寂滅** | カンヴァス・油彩／130.3×162.0cm

田原百恵 | TAHARA Momoe | **融解** | カンヴァス・ミクストメディア／162.0×130.3cm

庭野彩香 | NIWANO Ayaka | **小学５年生の私の絵と玄関** | カンヴァス・油彩／194.0×194.0cm

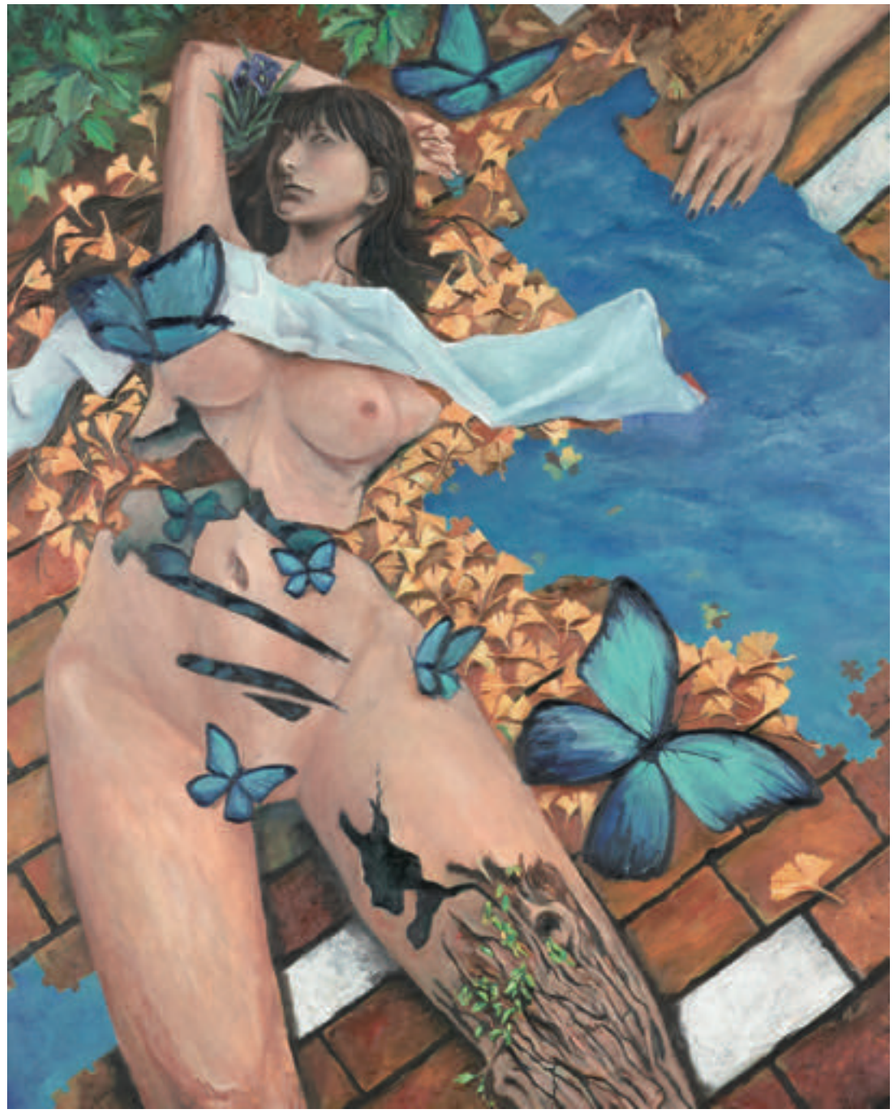
広山星香 | HIROYAMA Seika | **朝凪** | カンヴァス・アクリル／162.0×130.3cm

岩崎紘陸 | IWASAKI Hiromu | **Parallel Window** | カンヴァス・油彩・木／324.0×112.0cm

安藤玲奈 | ANDO Reina | **人魚** | カンヴァス・インパスト／162.0×130.3cm

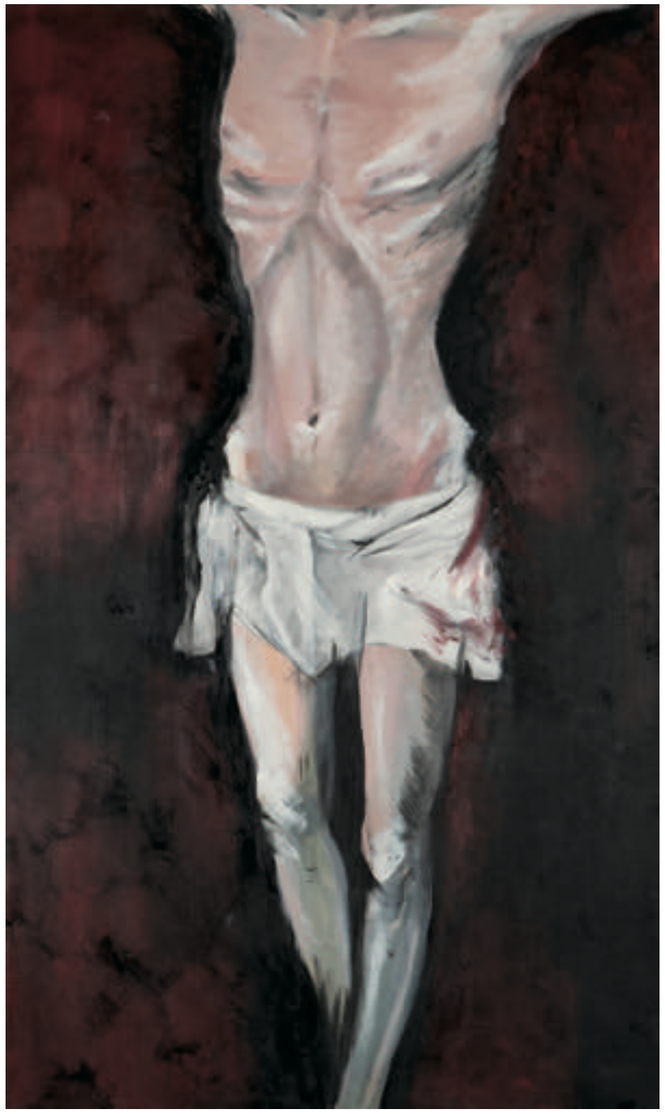
箱田由希 | HAKODA Yuki | **忘却** | カンヴァス・油彩／162.0×130.3cm

吉本美樹 | YOSHIMOTO Miki | **侵食** | 映像／4分28秒



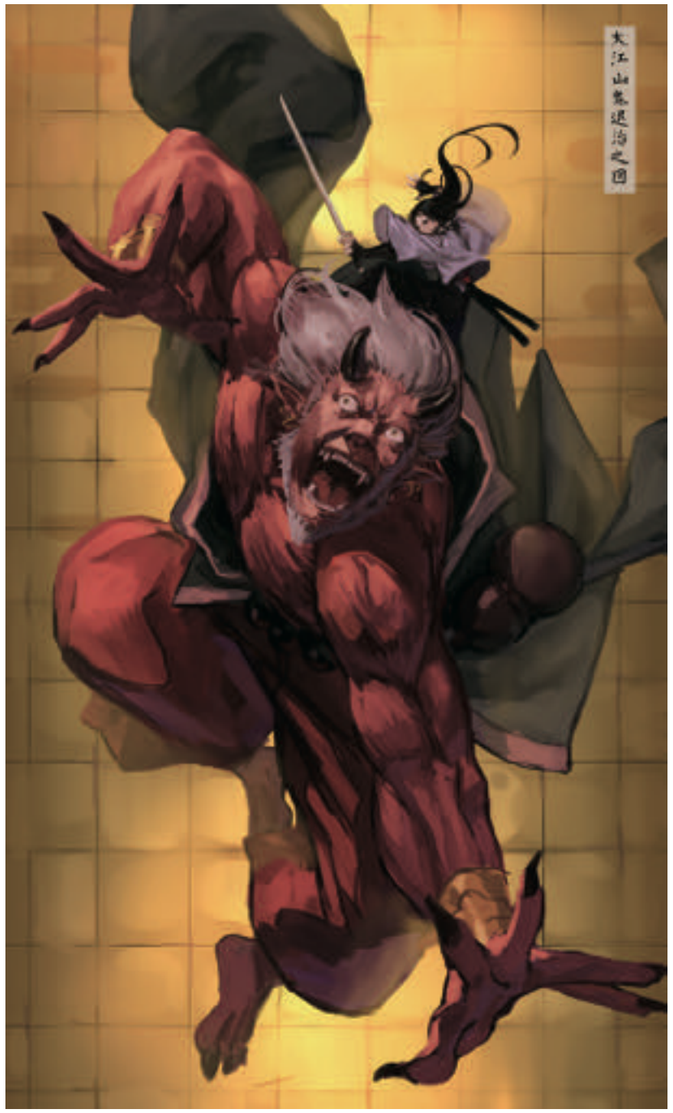
神保暁 | JIMBO Akira | 瑕疵動因 | カンヴァス・油彩／162.0×130.3cm

児島由加子 | KOJIMA Yukako | 静かな夜 | カンヴァス・油彩／130.3×162.0cm



桑原ざくろ｜KUWABARA Zakuro｜**太陽の門**｜カンヴァス・油彩／162.0×97.0cm

村上蒼｜MURAKAMI Aoi｜**手**｜カンヴァス・油彩／130.3×162.0cm



木村陸斗 | KIMURA Rikuto | **Apriori** | カンヴァス・油彩／116.7×91.0cm | **Harmony** | カンヴァス・油彩／116.7×91.0cm

小柳新之介 | KOYANAGI Shinnosuke | **大江山鬼退治之図** | タペストリー・デジタル／162.0×97.0cm

辻本彬 | TSUJIMOTO Akira | **フタリ** | カンヴァス・油彩／130.3×162.0cm

佐藤佳凜 | SATO Karin | **心地よい時間** | カンヴァス・油彩／182.7×116.7cm

伊加利尚他｜IKARI Shouta｜**新創世記　左**｜カンヴァス・油彩／130.3×162.0cm

末田莉子｜SUEDA Riko｜**飲み込めないもの**｜カンヴァス・アクリル／168.0×110.0cm

末永千浩 | SUENAGA Chihiro | madoromi | カンヴァス・油彩／110.0×163.5cm

倉中瞳 | KURANAKA Hitomi | 情景 | カンヴァス・油彩／130.3×162.0cm

寺脇早也加｜TERAWAKI Sayaka｜視線｜カンヴァス・油彩／162.0×194.0cm

小林凜輝｜KOBAYASHI Riki｜盲目のサイコキラー｜カンヴァス・油彩／130.3×162.0cm

島村聖 | SHIMAMURA Satoru | **ボロアパートの朝** | カンヴァス・油彩・アクリル／162.0×130.3cm

寺倉花音 | TERAKURA Kanon | **mountain,manazuru1** | カンヴァス・ミクストメディア／162.0×162.0cm

大島優太 | OSHIMA Yuta | **玄関** | カンヴァス・油彩／162.0×130.3cm

清水由紀 | SHIMIZU Yuki | **まだ染まらず** | パネル・デジタル ／103.0×145.6cm

中宮寺半跏思惟像の「美」とは何か ―変転する日本近代の観賞眼―

江田愛美

序章

中宮寺は、奈良県法隆寺東院の北東に門を開く最古の尼寺として知られる。同寺の本尊は、《伝如意輪観世音菩薩像》である。本像については、呼称、制作者、年代共に諸説あるが、本論では《中宮寺半跏思惟像》と表記する［図］。本像は、古来より「美しい」と称賛されてきた。それでは、本像に見出された「美」とはどのようなものであり、その「美」とは、全時代の万人に共通するものなのだろうか。本論では、明治から令和までに発行された本像についての論文や、著作、写真集、雑誌を参照文献として、本像が各時代ではどのように評価され、どのようなところが「美しい」とされたのかを時代を追って比較検証することで、明らかにするのが目的である。

第１章

明治時代に来日したアーネスト・フランシスコ・フェノロサは、日本美術の研究と展開に大きな影響を与えた。フェノロサは『朝鮮と日本の初期仏教美術』で、《中宮寺半跏思惟像》を推古美術最大の傑作と述べた。また、フェノロサは本像に見られる顔の表情や曲線美は、西洋古代彫刻の「美」に準ずる要素があるとして、高く評価している。つまり、明治期に本像を鑑賞したフェノロサは「美術品」として本像をみていたのである。しかもフェノロサは「強烈な神聖感」を本像に実見した時に受けたという。一神教として知られるキリスト教の教徒が、思わず跪拝したくなる衝動を免れなかったことを考えると、フェノロサは本像を単なる美術品としてではなくて、「神聖な美術品」としてみていたことが窺える。

第２章

大正時代に倫理学者である和辻哲郎は、本像の美しさについて『古寺巡礼』で、「あのうっとりと閉じた眼に、しみじみとやさしい愛の涙が、実際に光っているように見え、あのかすかに微笑んだ唇のあたりに、この瞬間にひらめいて出た愛の表情が実際に動いて感ぜられる」と主観的に述べている。和辻は、フェノロサと同じく顔の表情を美しいと評価したが、彼が最も美しいとしたのは「ツヤ」である。《中宮寺半跏思惟像》は、かつて彩色されていたとされているが、既に下地の黒漆地が露出している。この要素こそ、木造である本像に、銅のような輝きと強さを与え、微細な面の凹凸を鋭敏に活かすことができ、顔の表情を引き立てていると和辻は分析した。つまりは、和辻もまたフェノロサと同じように、本像を信仰の対象というよりも、「美術品」としてとらえていたのである。

第３章

昭和前期に日本は日中戦争と太平洋戦争を迎え、仏像への人々の意識は変化した。たとえば文芸評論家の亀井勝一郎は、はじめは、ロダンの《考える人》を《中宮寺半跏思惟像》の比較対象作品として挙げた。しかし、彼は最終的には、両者は単純に比較し得るものではないと結論付けた。《中宮寺半跏思惟像》は観る者を安堵させるかのような穏やかな微笑みを浮かべているが、《考える人》は沈鬱な表情を浮かべているからである。戦時中は、食糧難や死への恐怖など様々な苦しみが人々を襲った。亀井は戦前まで「美術品」として本像を捉えていたが、戦時下に身を置く中で救いの対象として仏像を崇めるようになったのである。しかし、その後終戦を迎えると人々は再び「美術品」としての評価を本像に対して行うようになった。その評価の主要なキーワードは「均整」「バランス」であった。

第４章

戦後の昭和後期になると、《中宮寺半跏思惟像》を明らかに「美術品」とみなす見解が増えた。それらの諸説中で最も注目すべき評言は、「プロポーション」である。プロポーションは、美術用語で比率や均整を意味する。彫刻作品では、全体と部分、部分同士の大きさの比率を指す言葉である。かつてフェノロサは、西洋古代彫刻にも共通する美しさが本像にあるとしたが、その理由は、空間の支配ということであった。視線や体の各部分の動きにより、実際の像の大きさのみならず周りの空間までも、作品の一部になる構成が美しいとされている。つまりは、広義の「プロポーション」論である。その点から、現代では本像を美術作品とする見方や考え方が、フェノロサに近しいものへと変化している。その要因として考えられるのは、日本人の外来文化概念を巧みに受容折衷する性格である。

結論

日本には美術という概念がもとからあったわけではない。「美術」は西洋の概念を翻訳受容したものであり、現在「日本美術史」の中で扱われる本像を含め、名品の数々も「美術」という概念の輸入無くしては分類と評価は不可能であった。美的感性に基づく判断は古来より存在し続けてきた。西洋美術での黄金比率がその最たるものである。だが、それも絶対的なものではない。そして日本でもまた、人それぞれが定める美の基準は、時代や文化の影響も受けながら変容してきた。ゆえに《中宮寺半跏思惟像》における「美」は時代の流れと共に変容したのである。そのきっかけは、西洋美術の浸透により、信仰対象から芸術作品として扱うようになったことである。しかし、決して日本人は西洋文化を妄信したわけではない。人は従来にないものには拒絶反応を示しがちだが、日本人は、ただその文化や考えを摸倣するのではなく、自国にない要素を取り入れることで独自の文化を発展させてきた。だからこそ、美術概念が浸透した今でも、「美」の鑑賞態度と信仰心を併せ持ったうえで《中宮寺半跏思惟像》を拝むために、最古の尼寺に足を運ぶ人が絶えないのである。

参考文献

和辻哲郎『初版古寺巡礼』ちくま学芸文庫　平成24年(2012)

亀井勝一郎『大和古寺風物詩』新潮文庫　昭和28年(1953)

『我が精神の遍歴』角川書店　昭和29年(1954)

町田甲一『大和古寺大観』岩波書店　昭和52年（1977）

碧海寿広『仏像と日本人宗教と美の近現代』中公新書　平成30年（2018）

論文

27,285文字（本文、註）

脚注:61件

図版総点数:5点

《中宮寺半跏思惟像》七世紀頃

PRINTMAKING

絵画コース　版画専攻

東尾文華
HIGASHIO Ayaka

阿部七菜子
ABE Nanako

望月拓郎
MOCHIZUKI Takuro

山嶋珠恵
YAMAJIMA Misato

三浦明日香
MIURA Asuka

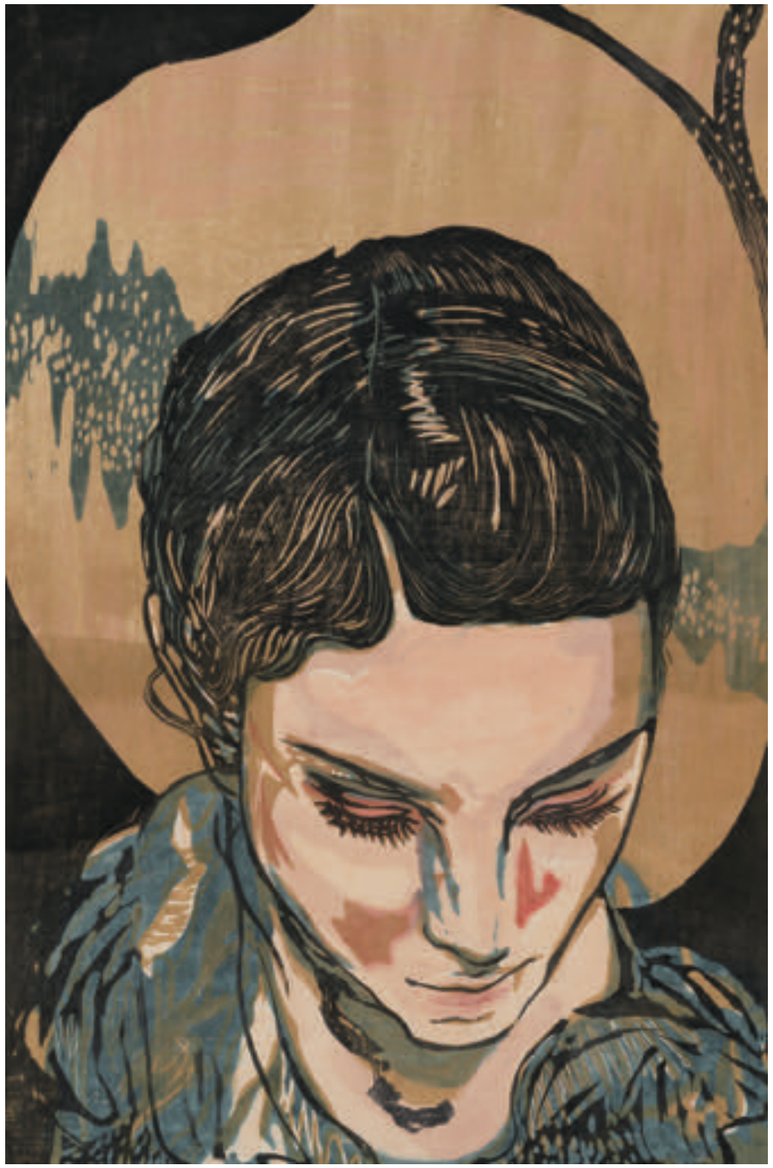
瀬野周
SENO Amane

小原幸奈
OHARA Yukina

久保美生
KUBO Miu

長沼翔
NAGANUMA Sho

須田香奈江
SUDA Kanae



東尾文華｜HIGASHIO Ayaka｜**儚き心で**｜水性木版／103.0×68.0cm

阿部七菜子｜ABE Nanako｜**夢で逢えたら**｜リトグラフ／64.0×93.0cm

望月拓郎 | MOCHIZUKI Takuro | **See You In My Dream** | リノカット／51.5×218.4cm

山嶋珠恵 | YAMAJIMA Misato | **深層** | リトグラフ／47.0×59.5cm

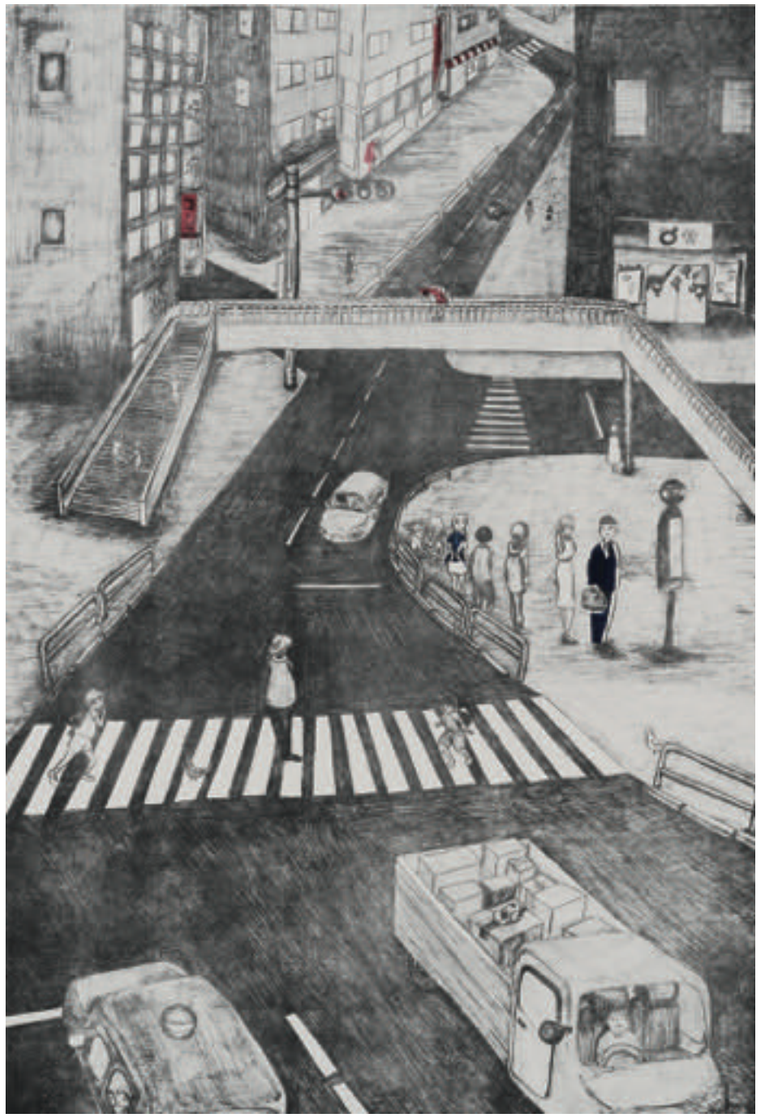
三浦明日香 | MIURA Asuka | **徒花** | リトグラフ／29.7 x 21.0cm × 45枚

瀬野周 | SENO Amane | **神様はきっと愛してくださる** | リトグラフ／100.0 × 80.0cm

小原幸奈 | OHARA Yukina | Goriiiiilla | 水性木版／80.0×80.0cm

久保美生 | KUBO Miu | Texas | 銅版／45.0×40.0cm

長沼翔｜NAGANUMA Sho｜Boy 8.31｜銅版／60.6×60.6cm



須田香奈江｜SUDA Kanae｜陸 -昼間の都会-｜リトグラフ／89.5×63.0cm

SCULPTURE

彫刻コース

飯田健人
IIDA Kento

大濵聡平
OHAMA Sohei

関根悠生
SEKINE Yuki

浦野友晃
URANO Tomoaki

吉田文香
YOSHIDA Ayaka

許昊洋
XU Haoyang

李政鐘
LI Zhengzhong

佐藤澄霞
SATO Sumika

小山優真
KOYAMA Yuma

飯田健人 | IIDA Kento | **葉っぱ** | 鉄／20.0×120.0×240.0cm

大濵聡平 | OHAMA Sohei | **虚栄心** | 鉄／168.0×265.0×170.0cm

関根悠生 | SEKINE Yuki | **動** | MDF板／可変

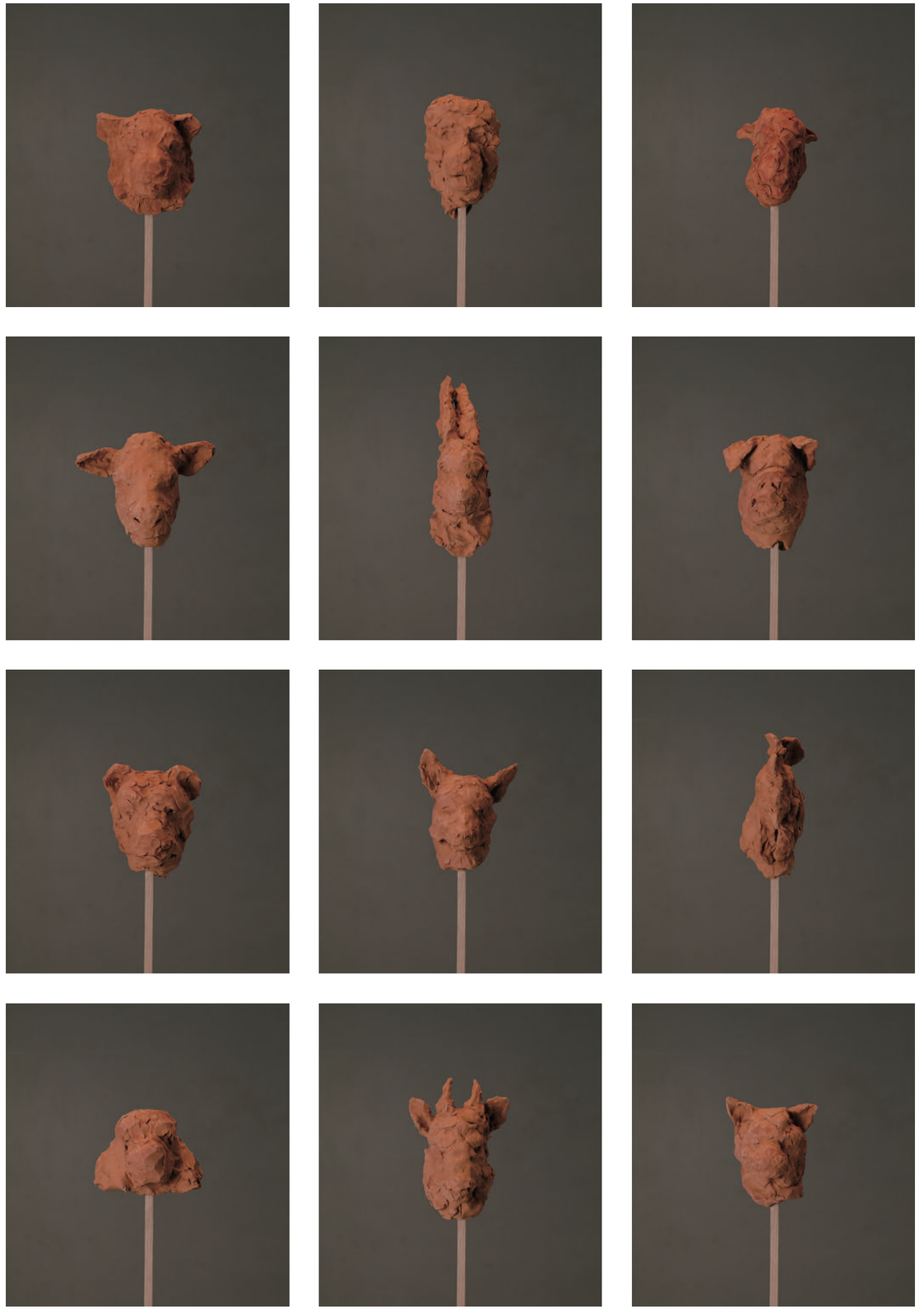
浦野友晃 | URANO Tomoaki | **悲観** | 石膏／210.0×60.0×135.0cm

吉田文香 | YOSHIDA Ayaka | **記憶** | 木／可変

許昊洋 | XU Haoyang | **連絡** | ミクストメディア／25.0×25.0×140.0cm（5個）

李政鐘 | LI Zhengzhong | 神壇 | FRP／可変　1：80.0×65.0×65.0cm／2：80.0×65.0×65.0cm／3：120.0×65.0×65.0cm

佐藤澄霞 | SATO Sumika | One in all | WAX　170×140×95cm



小山優真 | KOYAMA Yuma | **動物** | テラコッタ／可変

令和元年度　日本大学芸術学部美術学科　卒業制作・論文集　絵画／版画／彫刻
[Nichigei fine arts graduation works – Painting/ Printmaking / Sculpture]

発行　2020年2月

撮影　安達康介（絵画）谷岡康則（版画）山中慎太郎（彫刻）

デザイン　イシジマデザイン制作室　石島章輝

編集　坪井麻衣子（絵画）大山智子（絵画）関貴子（版画）飯田竜太（彫刻）柴田直起（彫刻）

印刷・製本　株式会社アイワード

編集・発行　日本大学芸術学部　美術学科
〒176-8525　東京都練馬区旭ヶ丘2-42-1
http://nichigei-art.com